朝鮮日報

日報論壇

同化せよ、爲さるゝ勿れ

黒潮生

清國に在る者、即ち所謂る清國通なる者の間に於て學識深遠能く其事情に精通して何を問はれても知らぬ事無き程のエライ先生あり、而しながら、先生等は之を組織的に記述し或は建設的に發表する事稀にして其多くは人の問はざれば語らず語るも其要領を得るに甚だ難きものあり斯の如きは先生は實に彼清國人より同化されたるもの也

中西正樹翁曾つて人に語りて曰く『余り彼地に長く居たので何が何やら薩張り解らなくつておたですが國に歸つてから追々事情が解る樣になりました』と翁の如きも確かに一度は清人に同化され居たるき、彼の府東日本居留民の長者たりし長谷川雄太郎氏の如きも清國近古の文に精通し政治、地形商工、人事に至る迄之を究めざる無かりし氏の遂に之を具体的に發表せるを見ず、只僅かに同文館に教鞭を採りつゝ時に或は風雲的の壯語を爲せるも其病に罹る、迄徳行の君子人たるに過ぎざるなりき、氏も或意味に於て既に同化されたるなり、其他山口五郎太氏の如き岩崎鐵彦氏の如き、英俊奇拔の士も亦彼地に在る事長きに從つて彼を解釋する事深きに從つて次第に組織的頭腦を欠ぎ徒らに大抱負を壯語するに慣れて遂に實行の人たる能はざるに了る。

[illegible] 故に彼等が清國に對する著述の多き超業の盛なる到底我邦人の企て及ばざる處也。

余以爲らく我邦人の性他を同化する能はずして反つて同化さるゝものあるとせば清國にありては其

行爲と商取引の信用堅忍持久なる

徒らに事大を喜ぶて龍頭蛇尾の人たる無かりしか

慶尚道事情に關する釜山領事館の調査

●大邱通信

朝鮮日報

社説

滑稽なる韓國（四）

（韓民の太平樂を聞かずや）

滑稽なる韓廷、滑稽なる官僚が競ふて幾多の滑稽を演ずるが爲に其支配の下にある韓民も亦更に大なる滑稽を演じつゝあるは問はずして知るべし、是れ性來の頑愚に加ふるに又彼等の先進が之を愚にする事を以て治天下の要訣と心得居る者から其益々滑稽に走つて而も自ら覺らざるは亦無理もなき次第なりや

[illegible]

東京電報

●敵の襲來（廿日午後七時四十分着）

十九日發公報本日午前約一師團を下らざる敵縱隊東山附近より [illegible]

●溝河太子小襲來せり

●密行英船捕獲（同日七時五十分着）

十九日密行英船二艘を捕獲せり

●京城通信（十八日 特派員發）

▲白銅貨引換律 白銅貨引換律に關して種々なる說も傳へらるゝ事なるが要するに二錢五厘とするか又其以上とするかに就き目下研究中なるが如く孰れにしても目賀田顧問歸任の上にて何とか決定を見るべしと云へり

▲捕鯨基址に就き元山監理の照照 捕鯨會社長河十郎代理荻原淸より通川に於ける露國人捕鯨基址は久しく納税を怠り自然該契約は破毀せられたるものなれば同所を讓渡されたしと願出でたる由にて元山監理に其處置につき昨日外部に發電して訓令を仰げり

▲閔詠吉三十萬兩を與ふ 義州居留民會費用なるりの此程閔詠吉を訪ひ往年の事故を發ひて遂に三十萬圓の手形を得て歸來せりと云ふ

▲城津郡守兼任せ請願 城津港民崔昌旭なるもの外部に請願して曰く本部分郡後郡守を廢して獨り監理を置きしが現監理趙〇〇氏は鏡川郡に倣ひ郡守を兼任せしむる樣內部に交涉せられたしと云々

▲印章を取り上げらる 免官となりたる咸鏡南道觀察使李軒卿の內部に從りし電報に日本兵隊より印章を取上げ出去する事を促すと

▲觀察使署理 咸興郡守李喬永より內部に送りたる電報に日本司令部より觀察使の印章を本郡守に交付し且つ本郡守をして之が署理を命すと

▲免官上京を命ず 內部は咸鏡南道觀察府に訓令を發し遞任觀察使は郡守に印章を渡し即日上京すべしと電報を以て訓令を發したり

▲警務廳各署に訓令す 官吏は執務の時平服を着する事を禁止ず巡檢の服裝は端正ならざるを要す井戸深藥局付ては人民どり錢何徵收したるや又其の總高等明細に記掲錄事すべき事井桁の上よ水汲を上げざると等を訓令す

▲嫌疑上疏遞任 掌事李徽善は閔泳徽を用尾島事件にて刑に行ひたる事ありしが此度閔泳徽平理院裁判長に任せられたるを以て嫌疑し上疏遞任したり

▲丸山顧問の演說 丸山顧問は各警察署を視察し衛生其他議案警察事務に關する演說をなしたり

▲借款契約と爭論 西江富民等八百萬圓を [illegible] て借款契約を破棄すべしと迫りしものありと云ふ尚は或るものは京城新聞社に迫り五江富民が長書を奉りて任納する等の事なきに何故斯るとを掲けしやと迫り爭論しつゝありと云ふ

▲米國公使の照會 華盛頓にある我國公使の電報料六百六十三元八十錢支給の事は目賀田顧問出發前支撥する事に決し居たるに尚は未だ支給せずとて支給を請ふにあり

韓國雜事

●韓國居留民團法案 韓國に於ける各居留地を法人と爲さんとの議は在留邦人の夙に希望する所にして政府亦其の必要を認め今期議會に之に關する法案を提出すべしとは本紙の逸早く報せし所なるが昨日に至り愈々居留民團法案なるもの衆議院に提出せられたり該案は固より韓國に於ける各居留地の爲めにのみ提出せられたるものにあらざるも該案成立の曉、最も多く其利益を受くるは韓國に於ける各居留地なるべく邦人の大部分が專管居留地に住居する釜山も專管居留地及び各國居留地其他に散在して住居する仁川も雜居地たる京城に於ても法人たる居留民團を設立するなどを得、居留地の經營上多大の便利を受くるに至るべし而して韓國各地に於ける我小學校教員が年功加俸、退隱料、遺族扶助料等の恩惠を受くる能はざる一事は良教員聘用上の一障碍として居留地經營者の夙に苦心する處なりしが幾に提出せられたる在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法案成立の曉は多少右の障碍を減ずることを得べく彼れ此れ在韓各居留地の發達には非常の便利を得るなるべし

▲一進會の要求 一進會評議員は一昨日內部に訪問して咸鏡道文川郡守丁裕燮は露軍侵入時に露軍の需用と稱する又た露軍の命令を受けて民間より糧食を徵發して其代金は總て自分の懐を肥し民間には一分錢も返さぬ事と昨年該地方に凶年の爲め政府にては戶布錢を顧減せしも同郡守は該稅金を徵收して毀食したる事等の不法行爲を呼訴して該郡守の免官懲罰を要求したりと

▲一進支會の電報 平安北道に於ける一進支會は本會に電報にて江界地方隊が會所を破毀して會員の負傷十二名ありしに該事件の付いて如何なる處分を與へるか早速返答を仰ぐなりと

●藥種取締令と韓國 藥種取締令が議會に現はれてより同業者等は百方運動中なるが該令期議會に於ては通過せざるべきも若し此令の事實を爲すは明かなる事にして若し又該令發布を當韓國に聽用するに至らば之れが影響を蒙るは同業者に尠からざるべしと云ふ

●元山の沿岸 日本海警戒の爲め二三日前より二三艘汽船の出入港禁止の爲めに一般不景氣を免れずといふ

●明太魚漁獲狀況 元山方面より歸來せし某人の談によれば同地の漁況は一昨年に比すれば最も不漁にして其の一割位の漁獲なるが毎年同地の漁獲高は約七八萬駄に達する傾向なり然るに昨年は露兵の出沒甚しくは氣候溫和の爲め海潮暖かなる等漁獸に不利なる沮害を受け爲に價格は昂騰して一昨年は六七貫の間に往來せしもの本年は其三倍額ら昂騰したる現象を呈したり然るに如上の氣候の暖和ふて暖潮なるを以て最早本年の漁期は終りに迫りたる景況なりと

釜山雜事

●居留民會と議員 本日開會せる常置委員會終了と共に早速居留民會を召集せざるべき由なるが目下議員中二名缺員旅行者三名あれば開會に際して又々流會を見ざるやう注意すべきなり

●京釜鐵道運輸概況 京釜鐵道の本年一月一日全線開通以降本月十三日迄營業狀況左の如し

二月中（京釜之部）
乘客人員二萬一千四百四十一人
賃金一萬八千四百六十圓十八錢
手荷物一五二千二百六十六斤
賃金二百五圓九十五錢
小荷物四万五千三百六十斤
賃金九百八十四圓七拾七錢
貨物百五十七萬八千百九十四斤
賃金二千七百八十一圓四十二錢
總計三万四千六十八圓二十六錢
（乘客手數料郵便物運賃雜收入省畧）

仝（京仁之部）
乘客人員二万三百三十五人
賃金六千九百八十二圓八十錢
手荷物六千三百斤
賃金七十六圓九十錢
小荷物二萬七千九百五十四斤
賃金四百三十三圓四十七錢
貨物六百三十三万二千八百三拾斤
賃金三千四百六拾一圓八拾二錢
（手數料其他省略）
總計三千四百六拾一圓八拾二錢

（一月一日以下兩線合計）
當期中
乘客人員拾五萬一千二百五人
賃金九万四千六百二拾七圓三拾一錢
乘客手數料百八拾四圓九拾八錢
手荷物七万二千六百八拾一斤
賃金千〇八拾一圓七拾四錢
小荷物二拾九万八千九百拾八斤
賃金三千七百九拾四圓六拾四錢
配達料拾七圓
郵便料金八百二圓二拾九錢
死作貨主品小物二百五斤
賃金三拾一圓八拾七圓
配達料四拾五錢
貨物三千三百二拾六万四千七百拾三斤
賃金三万三千六百九拾九圓九拾八錢
配達料四百二拾九圓一錢
雜收入四千四拾五圓八拾七錢
總收入拾三万八千七百拾四圓四拾四錢
一日平均收入四千百五拾二圓六拾錢
一日一哩平均收入拾圓七拾三錢五厘

內譯
京釜線（仝一日平均收入二千四拾二圓三四錢 仝一哩收入七圓四拾四錢八厘）
京仁線（仝一日平均收入一千一百拾圓二六錢 仝一哩收入四拾三圓二十錢）

●衛生か衛生か（某氏談） 交通の便は從々開け渡韓者頻々として引き切らず此時に當り當港の衛生上に於ける思想未だ普及ならず隨て此事業の成蹟者も不良なるは頗る悲しむべき也此際當局者の手を煩らすは勿論のと乍ら一般の衛生にも留まざれけれどと某氏語る

●衛生組合規約 昨二十日衛生組合副議長協議會に提出協議せし衛生組合規約は左の如し

釜山港第一區衛生組合規約

第一條 本組合は釜山港第一區衛生組合と稱す
第二條 本組合は釜山港在留民を以て組織す
第三條 本組合は組合內にて傳染病豫防救治及淸潔並に消毒其他衛生上必要施設を實行するを以て目的とす
第四條 本組合は左の職員を置く
組長 壹名
副組長 壹名
幹事 若干名
第五條 組長及副組長は當該組合會員の互選を以て之を定め幹事は組長之れを推擧す
第六條 第四條の職員の任期は滿二ケ年とす
但再撰を妨げず
第七條 組長副組長は常撰又は任期中其職を辭するを得ず
但病氣其他正當の理由ありて永く職務を執る事能はざるものは此限りにあらず
第八條 組長の掌理すべき事務左の如し
一 組合合人名簿を調製する事
二 組合を代表し規約實行の責に任ずる事
三 組合の共同財產を保管の責に任ずる事
四 組合經費收支に關する帳簿を整理することと
五 其他衛生上に關する事項
第九條 副組長は組長を補佐し組長事故ある時は代理す幹事は組長の指揮に依り組合內の事務を處辨す
第十條 本組合には左の器具及藥品を備ふ
一 空桶（消毒藥撒布用） 若干
一 如露 若干
一 不潔物運搬具 若干
一 石炭酸 若干
一 生石灰 若干
一 其他消毒に必要なる器具

●草梁釜山間の往來 昨今草梁釜山間の往來は頗る頻繁となり來り之れと共に昨今に至り飲食店を初め各種の商店續々として開業さるゝ模樣あり

●鐵道線路と石碑の妨害 朝鮮內地一般石碑多くして鐵道線路架設の妨害一方ならず之れと共に紛擾已むときなしと京城歸來の鐵道驛員語る

●妙覺院と幻燈布教 當港西町妙覺院別院にては近々幻燈の布教を爲す筈にて目下準備中なり

●日高海軍少佐 松本旅館に投宿中なる少佐は昨日午後四時着京釜の列車にて大邱に赴かる

○特志獻金者 幸町二丁目拾三番地土田のよ子は今回亡父の三回忌の法要を營むに際し陸軍恤兵金として金七圓五拾錢つゝの獻納を申出たりといふ

●知恩別院の忌會 明廿二日より廿八日迄宗祖大師の忌會を修行する由にて冷ねく案內狀を發せり兩日共午前拾時に御齋を進上廿四日より廿八日迄說教を爲すべしと

▼噫二週日▲

昨日記者は領事館を訪問し今晝餐終へたる計りと覺しく事務所において鈴木領事館補を初め一同ストーブを圍繞して縱談に耽けるの時なりき折柄軽く戶を排して入り來るは俊爽淸淡なる有吉領事也記者は松村書記生故人となられてより初めて面謁するを以て起て哀弔の意を述べぬ領事はあの余の新しき樹間に今更追憶に耐へざる如く黯然として語られき今日は松村君の二週日今年は松村姓の厄年か松村中將も逝けりと一座黯然均しく故書記生の空しき机に向はれぬ噫松村氏逝きて早や二週日溫良篤手なる氏の英靈は今那れの處にか眠れる（斗南生）

▲卅一年の今日▲

卅一年の今日は和氣淸麿公の正一位を贈られた日である、公は人の知る、誠忠無二の臣で、偉烈千載の下に輝いたるもの其人か贈位せられた日であるから卅一年の今日は長く〳〵記憶すべき日である

ドヾン土發 竹露

▲止む可し止む可しストン止む可し朦朧闘理の曉將斗南大博士鎔風大文士、足下等の論戰は陰か本紙文苑の開展を期し其辨難攻駁は朦朧として半ば眠れるへホクタ文士に學を進むるの文飾に忠義の士なり見よ學に患なる者は自ら執着あり執着ある者は自ら論戰ありて茲よ於てか眠れる文界初めて活動し是に於てか眞理始て現はる然かし無幻琴てふ足下の文章か朦朧たると一片の嗤笑を被むりしと云ふ一の感情より汗が辨駁を試みて黑白を筆硯に磨す足下よ足下は荀も天下の文士なり新聞記者てう使の重任を有するの志士ならずや余は足下に措問す足下よ罵られし者が非耶罵りし者が是耶正耶の別言は知る人ぞ知れり足下が意に止むる事柄にあらず足下は斷じて此論爭を中止され國家重要の問題に其熱誠を移すべし是れ新聞記者として將た大文士としての品位ならずやチト愼重に自己の問題を討究せられんことを一發是すと爾か

米國製輕便瓦ラバロイド ルーフイングを紹介す

▲ラバロイドルーフイングの製法 ラバロイドルーフイングの製造はタールや石綿や又たは紙類などを使ふ事絶へて無い。其原料は最上等にして且つ最も堅牢なる獸毛を最も注意して撰擇したる所の各種の性質を備へしめたものである。此原料たる獸毛は總て一條毎にラバロイド液と云つて酸類及火に耐ゆるの性質を備へてゐる一種特別の液体に涵したものである。其上に亦種一の塗料を施したものであるからさうすれば死として實際匹敵する物が無い丈の性質を備ふる樣になる

▲ラバロイドルーフイングの外觀 其色は濃い灰色で丁度學校用の石版の樣な色をしてゐる。からして此上に油繪具でどんな色でも移色をする事が出來る。屋根の上に飾り附けるには夫にどんな仕掛でもされるので極り切つた釘や錫製のとめ物をしないでも種々なる方法で以て裝飾的にとめる事が出來る。

▲ラバロイドルーフイングの便利なる點 ラバロイドルーフイングは平面の屋根にも亦は傾斜のある處にでも自由に張る事が出來る。其張り方は半枚でも一枚でも二枚でも亦は三枚にでも重ねて使ふので半枚或は一枚で濟むのは**假小屋**。**穀倉**。**家禽小屋**等で。二枚を重ねて使ふのは普通の住家にて**官衙**。**役所**。**倉庫**。**製造所**等に適當してゐる。三枚重ねは高度の熱や化學上の作用を受く可き大きな屋根にのみ必要である假へば鑛物場。化學上の製作場。及び彈藥製造場などをいふのだ。

▲ラバロイドルーフイングの有効期限 ラバロイドルーフイングは鐵や鉛板や木片や其他人工製の瓦の中で尤も長く使はれる。其著しき堅牢なる事實は巴里や獨逸のブラッセルや。南北合併亞米利加博覽會の建築で孰れも其本館及廊下等の床に使用されたので解る。其間に幾んぞから之を外づして見ると床板は丸で新らしくしてゐたと云ふ程だ。數百万の人間が數ヶ月間其上を歩いて居たのであるけれど。ラバロイドルーフイングは彈力性の物で且つ曲折自在である。而して**寒暑の爲に膨脹或は縮少する恐がない**或は建築物の震動の爲めに曲み或は裂ける事も無い。其水に耐へ酸類及アルカリーに耐ゆる性質を有する爲め製造場の用に供して最も有効である。拾年間以上此種の用に供した人から無數の證明書が來てゐる。太陽の熱も少しも之を變化させない。亦之を乾かして縮ひもしない。

釜山で此ラバロイドルーフイング特約一手販賣してゐるのは本紙の廣告にある通り**南濱通りの北海屋である**。

明治卅八年一月十四日 第三種郵便物認可 明治三十八年二月廿一日 朝鮮日報 (日刊) (火曜日) 第二十七號 (三)

朝鮮日報

小説 新作 松模様（上） 東京 麗翠生

芝日何丁目かの辻を右へ曲つて、唯有る新横丁の路地の、九尺二間の棟割長屋の四疊半、雪模様の空合の、昏黒と曇つて、空風寒き北風に、切迫師走の今日も暮れて、薄闇に灯きらめく頃、工場帰りの兄の源之助を待ち乍ら、生際のびん美しい丸ぼちやの、くるりとした眼の涼しい、頬に愛嬌を有つた、くつきりと締つた口元の、何れは海棠の蕾を見るゝ二十歳ばかりの、銀杏返に結つた妍娜女、名はお松といふ、源之助が唯つた一人の妹。

「まあどうしたのか不知、何時よりはよつぽど遅いのに……。」

と、お松はつぶやきながら、火鉢に双手をかざして、フト隅に掛けて有る三味線に眼を注いだが、毎夜の如く絃を合せ、浚ふとする心地も何となう氣鬱ぎを覺えて、撥振る氣も失せた、折柄、露路間の暗がりに溝板踏む足音と同時に、くさめもろとも。

「今晩は、へイ御免。」

と格子戸ガラリ、もの馴れた會釋して這入つて來たは、日頃源之助と兄弟分を名乗つて居る、矢張毎日築地某の工場勤めの、新吉といふ若者。

「おや、新さんかい、異な顔色つかつてるぢやないか。」

「イャ實ア昨夜、その寄席へ行たんだからな。」

「仕込まれちやつたね、すつかり。」

「ハヽヽヽヽ、益々異物?。」

「にそつくりよ。」

「あの分にや、何か驕らなくちやあならねえな、ハヽ……。」

「お季ぢや承知しなくつてよ。」

「天金のい。」

「まあそれぐらゐよ。」

「ハヽヽ、今晩は冒頭から一本やられたつてんだな。」

「兎角に大晦日も明後日だから、其時づけを上げませう。」

「へイ、たしかに承知、ハツハヽヽ、だが哥兄はまだ帰らんけね。」

「常よりは遅いんだけど、どうしたのかしら、未だ帰らないのも残り番に當つたのか知れないわ。」

「ア、さうだ〳〵、今日哥兄が残り番な筈だつた。」

「新さん、何か用事があつて?。」

「外に用事ぢやあねえが、已に愈々補充の召集になるかもしれねえよ、さうすれあ、検査も一緒だつたから、阿兄もおれも召集が、揃だと思ふんだ」

「アヽ成程、新さんも阿兄さんも同じ補充とやらだつたわね。」

と、お松はムと思ひ出して、胸につかへたがやう。

「召集になるんなら已あ女房や兄の後の始末に付いて、阿兄と相談しやうと思つて、實ア今晩やつて來たんだ。」

折りしも隣家あたりに、八時を打つ時計の聞ゆると間もなく、格子戸の外に、

「今晩は、山口様の家は此方ですか、あの源之助様をおつしやる方の家は。」

お松は不審の眉をひそめ乍ら、ふいと起つて。

「はい、手前ばさうでございます。」

と、渡さるゝまゝに、心もとなう滄浪く胸を鎮め乍ら、手に取つて灯影に見れば、紛れもない兄の源之助が補充の召集状。新吉はたゞならず顔色變へて、我が家へと一散走りに、

小説的大賊（つゞく）（破獄者八澤徳市の事）

稍確かなる

彼が最終に申立の伊藤豊治とは猶信ずべき處なるにより或は是かと疑ひしも若し札幌より回答ぜる本人なりとせば容易ならぬ大賊也と斯く思惟せる署長は再び札幌及び彼が足跡を印せる疑ある地方に照會して回答を要めたり其内回答を得たる左の二ヶ所は實に彼が破獄者八澤徳市なるべき事を彌々慥かなるに足れり

小樽の回答

數多なる照會の中小樽の回答より署長をして尤も滿足せしむるに足る者なりき其書ふ處によれば實名八澤徳市事は破獄の大賊にして辯護士吉田佐一郎と稱し地方を徘徊中種々悪策を弄し中にも小樽に來りてより明治法律學校々友募集と稱し當地辯護士入山新次郎の照會により裁判所判檢事辯護士間を歴訪し業では各有志家及明法學校出身の人々が發起する處となり大歡迎會を受け校基金を募集中警察の怪む處となり密に探偵中早くも嫌疑中となり居るを自覺し卅七年十一月初め東京方面に向て逃走せり依て直ちに東京各警察に捜索方を依頼せり云々

神田署の回答

北海道に於て辯護士と詐稱する破獄の大賊八澤徳市事は小樽署の照會により彼か上京の上止宿せる疑ある處を捜索せしに僅かに上京滞在せる事實を發見したるも彼は逃走せ早く手を回して横濱より京都地方へ逃走せし疑あり云々

果して破獄の大賊也

署長は小樽及神田署の回答に接してより愈々彼が牢破りの大賊八澤なる事を慥むるに至れり先づ小樽を逃走せる卅一月初めの日より小樽の捕縛を免かれ當釜山に來りし日時及び出没は彼が時々申立つる日時と符合せり且つ彼が北海道に於て辯護士と詐稱し寄附金を詐取せんとしたる手段は當地に於いて試したる處と同一手段也今は疑ふ處あらざれば更に彼を呼出して一々彼が虚偽の事を指摘して責立てければ流石に巧慧にして大膽不敵なる彼れ八澤徳市も今は一言も無くに窮して初めて牢破りの前科者なる事を白状するに至れり

斯くて小説的の大賊は島根縣において牢獄を逃走したるを初めとし東京を經て北海道に渡り更に引返して東京、京都、九州を經て企ては法網を脱し流れ流れて釜山に來り遂に捕縛せらるゝに至りたる經歴は宛然小説中の者にあらずや今や縛せられて本月十八日内地に護送せられ無事着したりとの報に接したりとなん近來稀なる大賊といふべし

鳴戸と待合

或る文學士は嘗て言ふた「土地の繁昌は藝娼妓の善惡にて下される」と、是れ慥かに眞理である、記者は亦斯言ふ意見を持つて居る料理店の事實はやがて其地の消長を卜して居るであると、處で當地料理店は先づ鳴戸と待合とあるが何れが優劣かと言はゞ何人も鳴戸を第一に置くであらふ、鳴戸の料理の新鮮を擇んで體裁の整ふてあるは一寸内地のにも目に付く、夫れに何んとなく氣風が上品で女中迄大様なのは喜ぶべき現象でもあら、待合とても全然卑下すべきではないが兎角商式に流れて進歩改良を計らぬは遺憾の事である、今や釜山發展の聲頻りなる折尤も人の視眼を惹き易き料理屋は一つは土地の爲めに一大奮發を要するや勿論である

を出よ

投書

◎人身攻撃に渉るなかれ
◎廣告吹聽にするなかれ
◎百字以上を用るなかれ

本社の商店訪問記はなか〳〵宜い仕組で且つ社會を利得し實業界を補益する事だ小商店も羨ばれて大に盛大にやつて貰い度い（贊成者の一人）▲某同業店の三十七人のお方よ幾ぅ少し丁寧に願い度い（落武者）▲鋼鐵の商店訪問記時節柄宜い思付き何うか拙店にもお尋ねくだされ（二本箸）▲昨日北濱あたりから南濱に散歩した午前十時頃南濱埋立地から十七八の美人が現はれた見惚れて後を追掛けたが蹈躙々々して居る中に姿を見失つた美人は何うか位取を僕に（薬了）▲商店訪問記を贊成す（一商店）▲人間とは三度の飯を喰ひウヨ〳〵として生き居るものにして小生は京釜鐵道に初めて乘つてみたが瑠璃の附近が危險なるとなら思ひ出しても身震ひする（新乘生）▲貴社の大便所の人糞の掃除りは甚しく御手際是れ見ろと云はぬ許りか御らぬと今け暴露秘候第二舉であるけれど藝娼妓とは喜氣地なしの作頂であると某は出ム（強聞自棄生）▲當地の青年の御方で書人が居られますが御名前がどうしてもわかりませんから御存じの御方は教へて下さい今時のハイカラ青年と違つて武骨な風で眼鏡をかけていらしやいますよ（西白湘）▲牧ノ島の某通譯所さん近頃は新聞さんが「ウヅソ」なので大變不勉強ですねぇ少し氣を付けないと困る事が出來ますよ（大目玉生）

大商店訪問記（五）

▲永吉貿易商（本町）

永吉貿易商店を問ふ……主人今しも元山の取引先より來れる書面五六通を開封一誦讀されつゝあり記者の訪問に接し早速火鉢奈など出さる私は元元山で貿易業を遣つて居りまして時々此地に參ましたが只今の書面にもよりますると元山も餘り景氣の宜い方ではない様です一週間前迄は大相良かつたのでございましたと縷々として約三十分間れ談して去れり

▲明治商會（西町二丁目）

ハハア訪問記者のお方でございますかエイお蔭様で客足の堪ゑぬのは有りがたい仕合でございます相うです私共が來た頃の釜山は各方面共一向振はぬ方でしたが何うも一變致した感があります、此處に來た許りの頃は大通りの商店中締切りて置く處がある許りか愛嬌を遣ふでもなく寄る立寄らるゝよりも素通りするゝ方を好んで居つた様でした兎に角釜山の一變した動機は京釜鐵道の開通と三拾六年中の北濱、舊玉通、南濱に起つた火事と日露戰爭の結果です、最も此火事で今日の壯大なる建築物も出來其後やう〳〵建ち物が出來又渡韓者も出來て今日の隆盛を見るとになつたのですがはんに私共の來た頃の釜山は新頭腦を有した商業家もなかつたのですが其後智識と經驗と多少の資本を持つて參る人があり、エイ此後も淳山入韓するのは當港繁榮の爲めに祝賀に堪ゑません云々

▲日朝寫眞館（南濱通）

ザア御入りなさい、寫眞界の事ですが別に變つた事も御座いませんが私は寫眞版製出の事に就いて少しく考へて居りますが當港に參つてから未だ一ヶ年にしかなりませんが未だ寫眞版製出をやられた方けない様です最も此寫眞版は當港の風景や人物などを編輯するに添ふべき仕事でございません

▲文殊堂（彫刻店）

大石喜春の主任たる大阪彫刻店商主人曰く斷店日猶は淺きにもかゝはらず夜の午前二時迄毎夜やつて居ります、は皆々様のお蔭です、ゴム印は名刺店何共に昨今申込者が非常に増加して參りました、此分で參りましたなら今後ゴム印はあらゆる彫刻物を凌駕するかと思はれます、兎に角ゴム印の需用は吾々の業も欣ぶところでございます云々

釜山商況

二十日

米穀類の上々物は多少上向きの氣配其他雜穀肥料物共沈靜也△生魚は水揚高著しく減じたる爲め稍高値なる中にも鯛の如きは非常に好し其他魚類は餘り變りなし

相場

別上摩擦米拾參圓△分賣摩米拾貳圓七拾錢△地精米拾貳圓參拾錢△中上米拾壹圓也△中米拾圓六拾錢△仝並米拾圓貳拾錢△改良現米拾圓六拾錢△仝並米拾圓△上大豆七圓參拾錢△並大豆七圓拾錢△小豆拾圓也△大麥六圓〇五錢△小麥拾壹圓七拾錢摺摩拾壹圓△荏子八圓八拾錢△牛皮參拾九圓△油粕貳圓拾五錢△牛骨壹圓七拾錢△ブチツ壹圓拾五錢△地ぬか八拾貳錢

魚市場 十九日

四月廿五圓拾貳錢 水揚高△たい十貫目廿貳圓△仝九圓△平め同九圓△ぶり仝廿五圓





朝鮮日報

日本郵船會社 滊船釜山出帆廣告

日東丸 二月二十日 仁川チーフ行
ヲハヨー號 二月廿六日 仁川鎮南浦行
荷客取扱所 同 大池回漕店

大阪商船會社 汽船釜山出帆廣告

木浦仁川鎮南浦行 義州丸 三月三日
同 月 日
木浦仁川行 安東丸 同 二月廿四日 一月廿一日
群山丸 二月廿六日 一月廿三日
守川行 バイキング 二月廿八日
アンジ子號 二月廿一日 一月十八日
馬山浦木浦群山行 蒼龍丸（馬山に寄航せず） 全 二月廿五日 一月廿二日
馬關神戸大阪行 肱川丸 三月 一日
蒼龍丸 三月三日
バイキング 二月廿三日 一月十九日
義州丸 二月廿五日
木浦丸 二月廿四日
アンチ子号 二月廿七日
安東丸 三月 二日
馬關下關神戸大阪行 朝日丸 陽二月廿七日 陰午前六時出帆
元山行 肱川丸 全二月廿三日 全一月廿一日
浦潮行 瑞鷹丸 仁川群山間毎週三回往復
大阪商船株式會社

滊船釜山出帆廣告

元山行 防長丸 二月廿二日
下關神戸大阪行 浦門丸 二月廿二日
荷客取扱店 三木回漕店 電話八二番
同 海岸出張店 電話一七二番

堀商會 滊船釜山出帆廣告

京畿丸 定期檢査中
木浦仁川行 慶尚號 全
慶寶丸 二月二十日 正月十七日
元山行 泰盛号 陽二月廿六日 陰正月廿三日
正成丸 仁川群山間航海中
堀商會本店 本町海岸郵便局前
釜山代理店 山川回漕店 電話一七八番

汽船門司長崎池田行 松前丸 陽二月 陰正月 日日
門司長崎行 幸光丸 全二月 全正月 日日
野村汽船群山仁川行 寧静丸 全二月 全正月 日日
貫効丸 陽二月 陰一月 日日
荷客元扱 釜山港本町海岸郵便局前 山川回漕店 電話一七八番

大川運輸株式會社深川滊船 釜山出帆廣告

定期運航汽船 若津丸 二月廿三日 午後六時
嚴原唐津行（九州鐵道ニ連絡ス）
中上回漕店方

馬山浦行
荷客取扱店 國中商店

大阪尼崎滊船釜山出帆廣告

山陽丸 陽二月廿五日 陰一月廿九日
午後二時出帆 荷物締切午前九時
八頭司運送部

滊船釜山出帆廣告

馬關神戸大阪行 神代丸 陽二月廿三日 陰一月廿一日
仁川行 第二崇敬丸 全二月二十日 全一月十七日
仁川行 大有丸 全二月廿二日 全一月十九日
荷客取扱店 大池回漕店

滊船釜山出帆廣告

元山行 第八永田丸 陽二月廿一日 陰一月十七日
世昌洋行滊船 馬司神戸大阪行 ダクマル號 二月 日
仁川膠洲灣行 スルベルグ號 二月 日
門司神戸横濱行 マリフク號
釜山運輸組滊船 第四共同丸
沖永回漕店（電話弐百貳拾七番）

廣告

世昌洋行滊船乗客貨物元取扱引受候ニ付御便利ニ御相談可仕候間多少ニ不拘御申込被成下度此段廣告仕候也
北濱一丁目 齋藤孝藏

世昌洋行汽船出帆廣告

濠州門司神戸大阪行 ダクマル 二月 日 午後五時出帆
仁川膠洲灣行 スルベルク 二月 日 午後五時出帆
世昌洋行汽船元取扱店 齋藤回漕部



京東 大慈本店製

印 バツメ 赤龍葡萄酒（合）

賣捌店 釜山本町 秋野店
釜山北濱 粟谷出張店
葦梁大慈支店
七川 土井

京城泥峴一號地

第一東京辯護士會 辯護士 皆川廣濟
在京城 刑事民事 訴訟 法律事務 ノ取扱 契約證書

商標 健胃強壯 胃藥

가심아리, 가심제리, 먼족, 음식니리지안는증의모약이요
本主治胃腸病服後功能新藥
胃劑健全身軆快活非凡良劑
製劑發賣元 滿韓賣藥商會

韓國釜山港本町 藤井文平商店（電話貳四參）

石鹼
パイプ
綿毛布
洋襪
洋メリヤス類
洗曹達香油
鏡各種 タチル石油
硝子器素麺うどんびん
附眼鏡類和洋紙まつち韓人需諸金物類
其他韓人向雜貨一式御注文ニ應じ如何なる品にても薄利大勉強仕候間ドシ〳〵御注文の程奉願候也



赤野銘葉
キリン
刻煙草は 賣捌所は 齋藤
大阪 釜山 合 商店

謹告

拙者儀、表裝業致居候處各位の御愛顧により日に増し繁榮に赴き候段奉感謝候然る處目下の時局に鑑みる所有之自今毎月收入の内幾分を割き之を献金し以て聊か報國の義務を盡さんと存候に付きては各位主主の御愛顧を御洞察被下多少に不拘御用命被仰付度候也
西町二丁目陳列館正面通り 福村松旭堂

二十世紀の發明に係る **開明墨**

本品特色は第一直段が安くて携帯に便にして普通の墨色と毫も異る事なく水結せざるは勿論磨墨せる煩を省く、此開明墨を試驗すれば此の會社商店に一度び此開明墨を試驗すれば此の上もなき極々便品……見本入用のお方は三錢郵券二枚御送附あれば直に送附す
西町二丁目拾五番地
韓國一手販賣 志また
北濱町四丁目 田口發水堂方
取次所 志らき

滋養牛肉ソップ販賣
陸軍御用釜山罐詰所製品
南濱二丁目拾八番海岸通
二合代貳錢 平田秀吉

材木建具廉價販賣
富平町消防所側 平松商店

三印 醤油
釜山北濱通 水野巖商店
鳳凰 龍草

大坂毎日新聞 一ケ月代四拾八錢
萬朝報 一ケ月特別大割引 三拾錢
幸町一丁目長手通 山口新聞舗

丁寧親切 南濱地六番町 柳井旅館

獸醫 富平町拾七番地 中尾祐作 電話四拾四番

板材木廉價販賣
其他石灰竹瓦
南濱海岸通 島末商店

風邪良藥 妙振出し
安質比林丸
醫科器械類
和漢洋藥類
藥劑師 釜山本町 弓削靈藥舘

精白米廉價販賣
石炭米共ニ併賣仕候 南濱町海岸通四ツ角 西原商店

勉强御下宿 南濱一丁目十六番地海岸通 伊豫屋

唐津石炭 ガウ炭
辨天町一丁目 國安商店 電話一七一

釜山幸町南濱通一丁目拾五番地 共生齒科醫院

會席御料理 仕出し
西町三丁目（電一一三） 春日

磨擦米廉價販賣
富平町 岡本商店

歐米時計各種 附屬品各種纜飾色付
電氣メッキ 金、銀、赤銅、ニッケル、保險付
幸町一丁目 園田時計店（電話二〇〇番）



青物乾物 砂糖麥粉
西町一丁目 遠藤商店 電話架設中

齒科診察治療時間
自午前八時 至午後五時
但日曜日正午十二時限
齒痛患者此限ニ非ラズ
西町三丁目卅八番地 深江齒科醫院（電話二百五十二番）

◎萬朝報◎日韓語學
◎東京日々新聞◎報知新聞◎大阪新報
◎大阪朝日新聞◎大阪毎日新聞◎朝鮮
朝鮮唯一の大新聞 朝鮮日報 一月卅錢 配達快速
廣告印刷大勉强ヲ為ス
大邱方面一手特約販賣所
雜貨商 朝日商會
◎朝◎評論◎日露戰記◎

支那料理 東京そば
西町三丁目 東庵

株式會社第一銀行支店 電話一番
明治六年設立
一資本金 壹千萬圓
一積立金 百七十万圓
本店 東京
支店 取締役 澁澤榮一
出張所 京城 仁川 木浦 群山 鎮南浦 元山 京城 平壌 開城 大邱 安東縣 横濱 大阪 神戸 名古屋 長崎 馬山 三浪津 ……
為替取組先 ……
諸預り金爲替貸金其他銀行一切ノ業務多少ニ不拘御便利御取扱可申候

釜山倉庫株式會社 第拾五回決算報告
明治卅七年下半期貸借對照表

未拂込株金	一二、〇〇〇
土地家屋	[illegible]
什器	[illegible]
創業費	[illegible]
銀行預金	[illegible]
北濱倉庫保管料未收入	[illegible]
貸金	[illegible]
假出入	[illegible]
現在金	[illegible]
合計	[illegible]

負債之部 株式 積立金 當期純益 合計
明治卅七年半期損益計算
利益之部 北濱倉庫保管料收入 他店倉庫保管料收入 第一銀行倉庫保管料收入 利息收入 地料收入 合計
損失之部 他店倉庫保管料割戻 第一銀行倉庫保管料割戻 火災保險料 給料 營業費 合計 差引純益金四百五圓七拾錢也
當期純益金分配
一金四百〇五圓七拾錢也
内 積立金 金八拾五圓七拾錢也 賞與金 金六拾圓也 配當金 金貳百六拾圓也 一株ニ付五拾貳錢四歩ノ割
右之通相違無之候也
明治卅八年一月
釜山倉庫株式會社
取締役 泊淵房八 同 阪田與市 支配人 保家興吉……
監査役 矢橋寛一郎 同 福田増兵衛
前記之各項調査ヲ遂ゲ其正確ナルヲ保證候也
當期ハ重役改撰期ナレバ總會ノ希望ニヨリ撰ヲ行ハズ前重役ヲ重任ヲ承諾ス